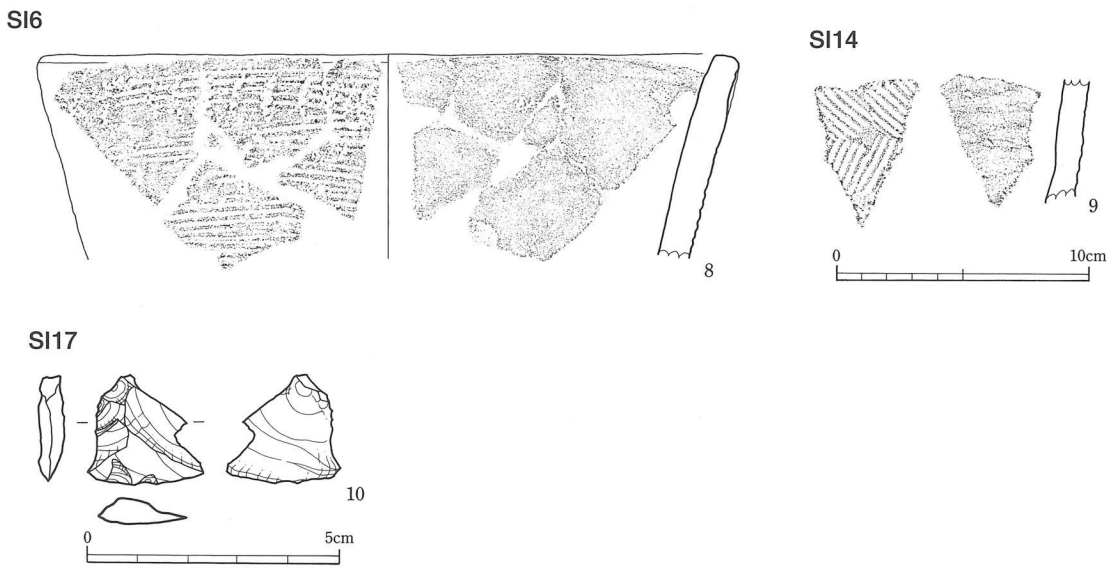


第106図 西ヶ迫遺跡 集石遺構(SI)実測図(4) [S=1/20]

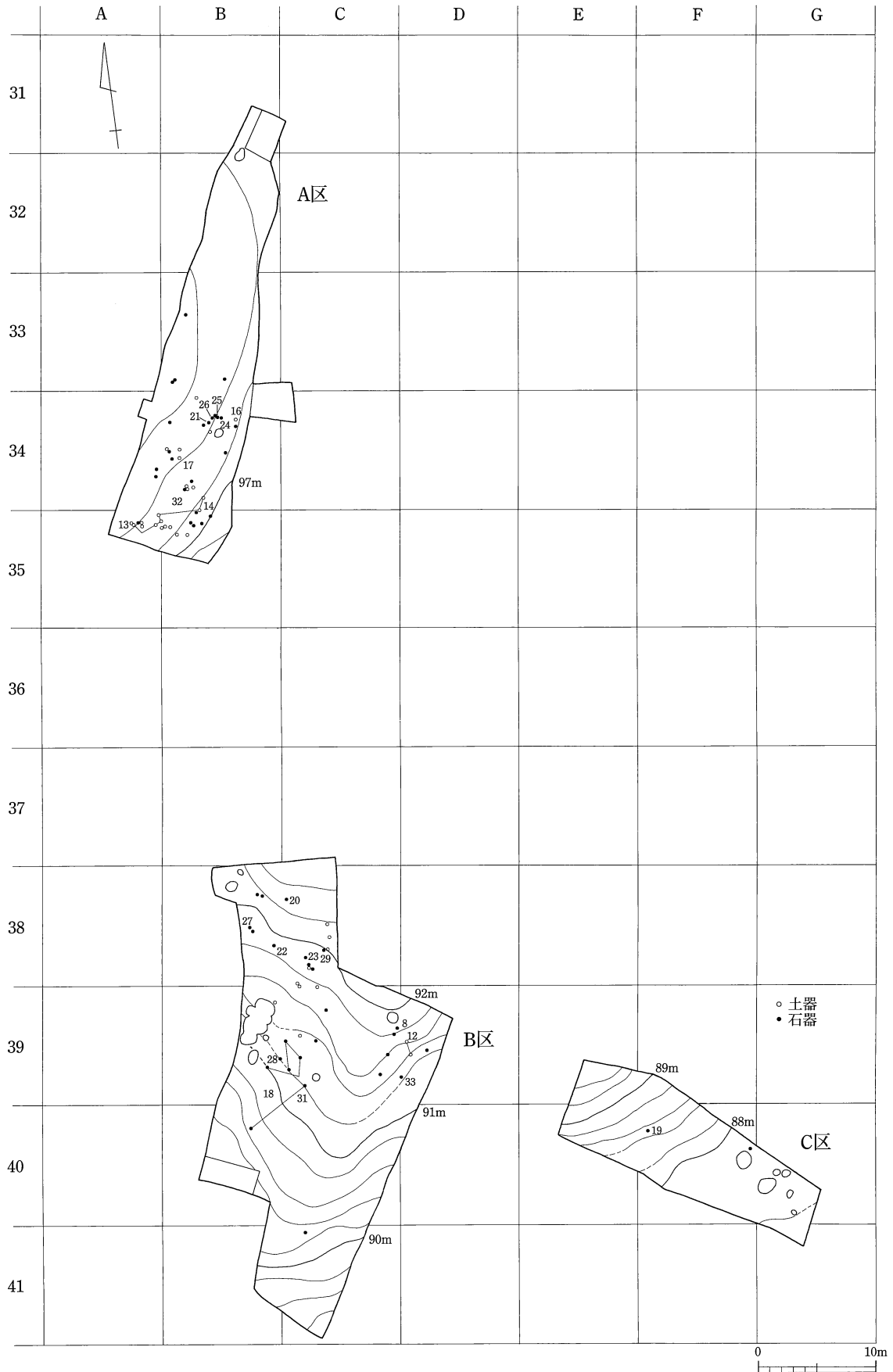


第107図 西ヶ迫遺跡 遺構内出土遺物 [8・9:S=1/3, 10:S=2/3]

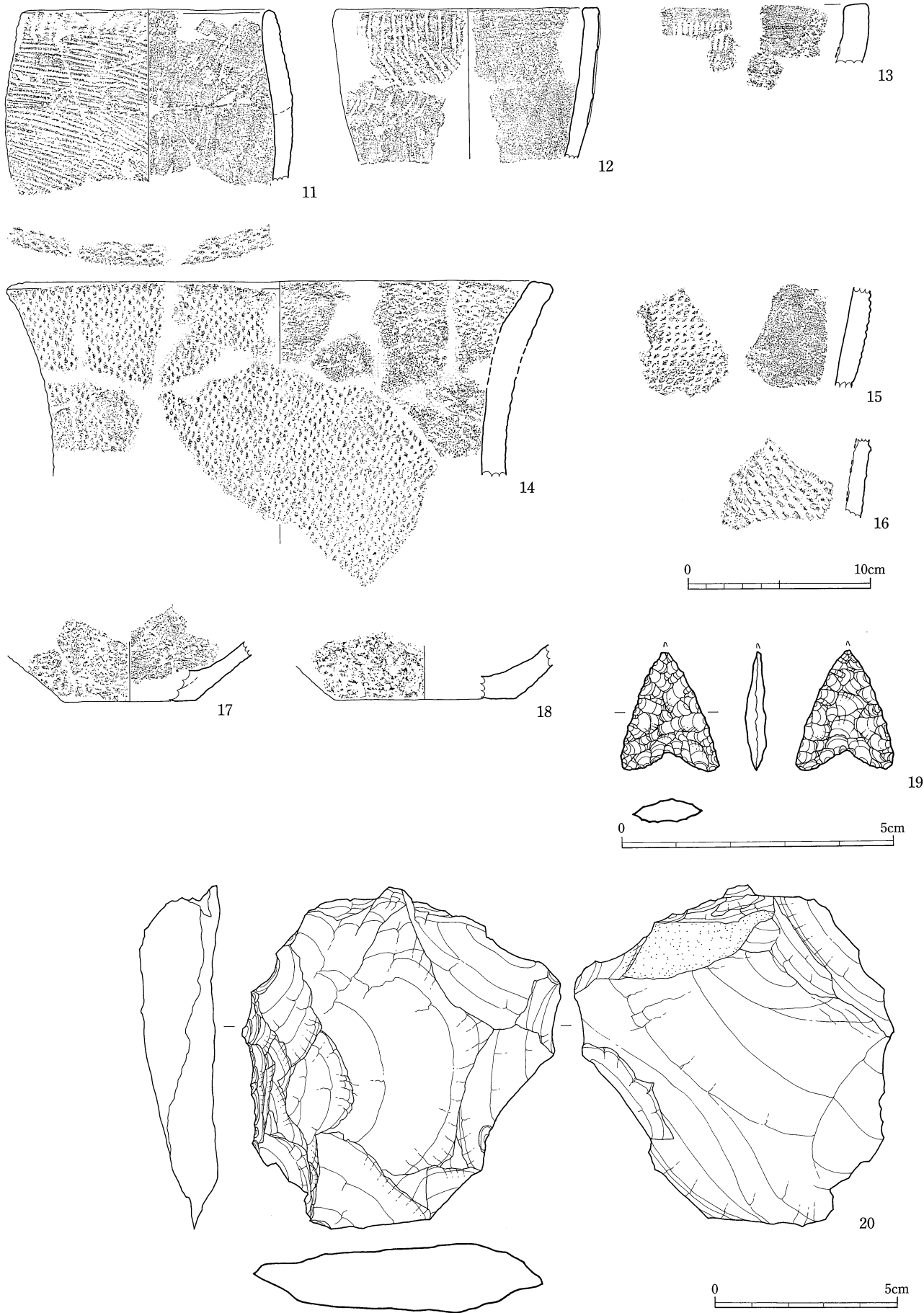
第12表 西ヶ迫遺跡 集石遺構(SI)一覽表

番号	検出位置	層位	分類	礫の範囲(m)	土坑の規模(m)	土坑の深さ(m)	配石の有無	礫の個数	備考
1	A区 B34	IV	V	1.37×0.99	—	—	—	77点+α(尾鈴酸性岩30点,砂岩・頁岩等47点)	大半が破碎礫で構成。礫の赤変が弱い。
2	A区 B31・32	IV	II	0.94×0.79	0.57×0.55	0.19+α	無し	175点(尾鈴酸性岩111点,砂岩等64点)	完形礫5点、土坑内に多量の炭化物を含む。大半の礫が赤変、また黒変したものもみられる。
3	B区 B38	IV	II	0.73×0.53	0.5×0.48	0.07	無し	73点(尾鈴酸性岩47点その他26点,砂岩や頁岩がみられる)	完形礫8点。礫の赤変は弱い。掘り込みは浅い凹状を呈する。
4	B区 B38	IV	II	1.32×0.94	—	—	—	199点(尾鈴酸性岩108点,砂岩83点,頁岩8点)	完形礫19点、炭化物を若干含む。礫の赤変は弱い。
5	B区 C39	IV	II	0.93×0.91	0.60×0.59	0.12	無し	110点(尾鈴酸性岩65点,他45点,砂岩や頁岩がみられる)	下場と礫の間に極少量の炭化物を含む。礫の赤変は弱い。
6	B区 B39	IV	IV	※0.58×0.55	—	—	—	※約200点(尾鈴酸性岩,砂岩等)	大半が破碎礫で構成。礫の赤変が弱い。
7	B区 B39	IV	IV	※0.53×0.42	—	—	—	※約100点(尾鈴酸性岩,砂岩等)	大半が破碎礫で構成。礫の赤変が弱い。SI7よりも密集度が低い。
8	B区 C39	IV	II	0.98×0.95	0.93×0.90	0.16	無し	220点(尾鈴酸性岩120点,他100点,砂岩もみられた)	大半が破碎礫。中央部はよく赤変しているが、周辺は弱い。
9	B区 B39	IV	IV	0.56×0.46	—	—	—	約70点(尾鈴酸性岩,砂岩,頁岩)	破碎礫が多い。礫は、よく赤変している。
10	B区 B39	IV	II	※約1.2	1.21×1.1	0.27	無し	※約680点以上(尾鈴酸性岩,砂岩,頁岩等)	土坑内に多量の炭化物を含む。SI11を切っている。
11	B区 B39	IV	II	※約1.2	1.2+α×1.0	0.18	無し	※約900点以上(尾鈴酸性岩,砂岩,頁岩等)	土坑内に多量の炭化物を含む。SI10に切れ、SI12を切っている。
12	B区 B39	IV	II	※約1.4	1.3+α×1.32	0.3	無し	※約750点以上(尾鈴酸性岩,砂岩,頁岩等)	土坑内にあまり炭化物をふくまない。SI13との切り合い関係不明。
13	B区 B39	IV	II	※1.32×6	1.24×1.1+α	0.12	無し	※約360点(尾鈴酸性岩,砂岩,頁岩等)	土坑内にほとんど炭化物をふくまない。
14	B区 B39	IV	II	※1.8×1.34	1.6×1.1+α	0.32	無し	※約800点以上(尾鈴酸性岩,砂岩,頁岩,チャート等)	比較的大ぶりの礫が多く、よく赤変している。土坑内に多量の炭化物を含む。
15	C区 G40	IV	IV	0.55×0.42	—	—	—	37点(尾鈴酸性岩15点,砂岩22点)	完形礫1点、炭化物粒が少量みられる。若干窪む。
16	C区 G40	IV	IV	0.82×0.5	—	—	—	35点(尾鈴酸性岩,砂岩等)	完形礫17点。全ての礫が赤変している。特に砂岩のものが赤変が著しい。
17	C区 F40	IV	II	1.36×1.22	1.37+α×1.23	0.17	無し	212点(砂岩181点,頁岩21点,尾鈴酸性岩10点)	完形礫19点、炭化物を含む。土坑の北側部分不明。
18	C区 G40	IV	V	2.03×1.52	—	—	—	243点(尾鈴酸性岩,砂岩,頁岩)	破碎礫が多い。礫は、よく赤変している。東側の礫密集度が低い。
19	C区 G40	IV	II	0.65×0.58	0.9+α×0.77	0.16	無し	46点(尾鈴酸性岩23点,頁岩1点,砂岩22点)	完形礫7点、掘り込みの東側部分は不明。炭化物粒を含む
20	C区 G40	IV	V	0.82×0.65	—	—	—	80点(尾鈴酸性岩41点,砂岩39点)	完形礫21点

※は群で確認されているため、礫の範囲および数量については明確に境界が分けられないことから、推定値を入れている。



第108図 西ヶ迫遺跡 縄文時代早期出土遺物分布図〔S=1/500〕



第109図 西ヶ迫遺跡 縄文時代早期遺物(1) [11~18:S=1/3,19:S=1/1,20:S=2/3]

(2) 遺構内出土遺物 (第11図、第13・14表)

遺構内で確認されている遺物は少なく、S I 6・14・19で確認されたのみである。

S I 6では土器片(8)が確認されている。8は口縁部は外側に開き、外面には貝殻による粗い条痕調整の後、口縁部に貝殻腹縁による連続刺突が施されている(別府原遺跡分類のⅡa1類)。

S I 14では土器片1点(9)、ホルンフェルス製の剥片が1点確認されている。そのうち、9は胴部片で、櫛歯状の工具を用い、綾杉文が施されている。

S I 19では剥片が2点確認されている。そのうち1点(10)を図化した。10はチャート製の不定形剥片である。

(3) 包含層遺物 (第13～16図、第13・14表)

土 器 (第13図)

土器はA区およびB区で出土がみられる。約30点が確認されているうち、円筒形貝殻文土器や押型文系土器等がみられる。その分布は主にA区では押型文系土器が、またB区では円筒形貝殻文土器が多く確認されている。

11はB区で出土し、胴部に最大径を持ち、口縁部は内にすぼまる。器面には斜位に貝殻条痕を施した後、口縁部に貝殻腹縁による刺突を施す。

12はバケツ状の器形で、口縁部が内側に張り出す。器面には口縁部に縦位の短沈線を連続的に施文後、横位の羽状文を施している。

13は口縁部が内湾し、櫛歯状工具による縦位の短沈線を施文している。

14～18は押型文土器である。14は口縁部が大きく外反する器形で、外面は縦位、口縁部および内面上部には横位にそれぞれ細粒の楕円押型文が施されている。15・16は胴部片の資料である。両者とも斜位に楕円押型文を施文しているが、そのうち16の押型文はやや粗大である。

17・18は底部の資料である。両者とも平底で、そのうち17の底面には白色の顔料が付着している。

石 器 (第14～16図)

石器は包含層中(Ⅳ層中)より45点出土している。その内訳は石鏃1点(1g)削器1点(161.7g)、二次加工剥片5点(346.6g)、剥片28点(1,405.9g)、石核1点(2.5g)、打製石斧3点(774.1g)、局部磨製石斧1点(62.1g)、礫器2点(735.3g)、磨石(639.5g)、石皿3点(15,298g)である。また攪乱土中より石錘が確認されている。利用石材はホルンフェルス3,445.4g、チャート29.2g、黒曜石(桑ノ木津留産)5.8g、頁岩8.8g、砂岩80.8g、尾鈴酸性岩(溶結凝灰岩)15,937.5gである。

19は石鏃である。浅いV字状の抉りの入る凹基鏃で、先端が欠損している。加工は両面より丁寧に加工が施されている。チャート製である。

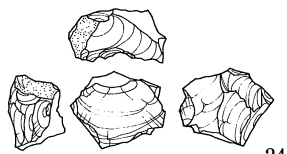
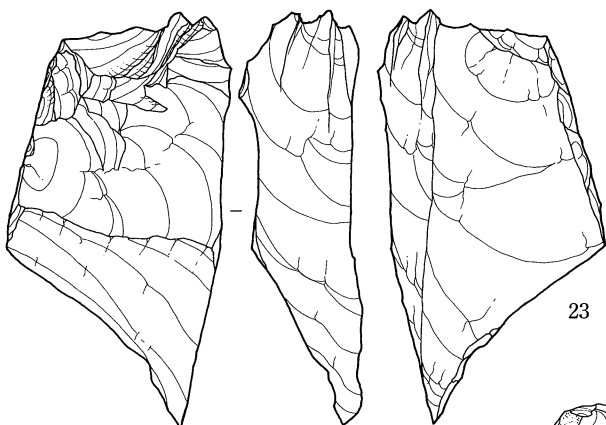
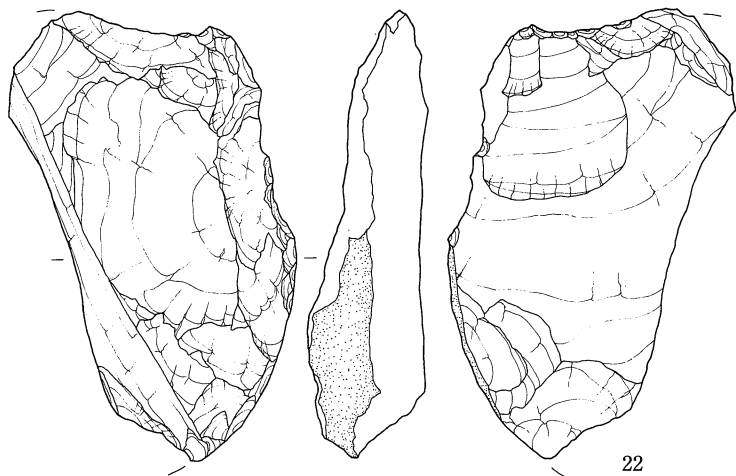
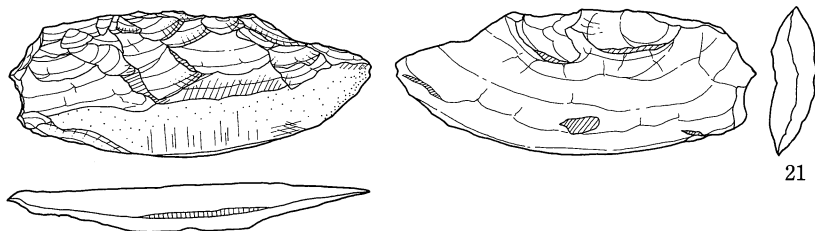
20はスクレイパーである。大型で不定型な幅広の剥片を素材とし、左側縁に主要剥離面から加工を施し、刃部を作出している。ホルンフェルス製である。

21・22は二次加工剥片である。21は主要剥離面からの加工により打面を除去している。下縁部を刃部として使用し、縁辺には使用痕と思われる摩滅痕が認められ、特に下縁中央は著しく、摩滅面を形成し

ている。摩滅痕はそれ以外にも表面中央からした縁にかけてと主要剥離面側にも認められる。22は両面からの加工により、打面部を除去し、右側縁には主要剥離面から大まかな剥離を行ったのち、中央部に細かな加工を施している。左側縁は欠損している。どちらもホルンフェルス製である。

23は剥片である。ホルンフェルス製である。

24は石核である。打面を頻繁に転移させながら剥片剥離作業をおこなっている。石材は桑ノ木津留産黒曜石である。



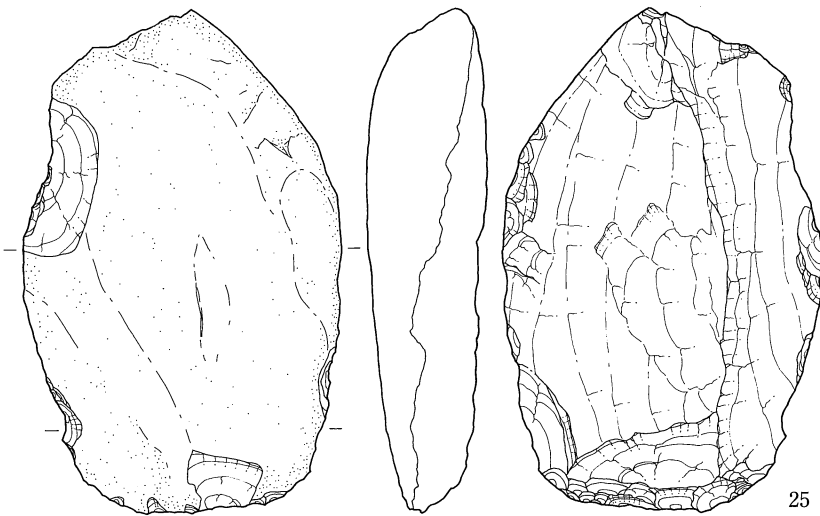
25・26は打製石斧でどちらも短冊形を呈する。25の主要剥離面には異なる風化面を持つ剥離面が認められ、側縁にはあまり加工を施さず、刃部に細かな加工を施している。26は基部が欠損している。側縁部に加工を施している。石材はどちらもホルンフェルス製である。

27は局部磨製石斧である。欠損しており、刃部のみの資料である。両側縁に入念な加工が施されている。刃部は片刃を呈し、両面とも研磨が認められる。ホルンフェルス製である。

28・29は礫器である。そのうち28は両端に加工が施され、刃部を作出している。29は楕円形を呈する扁平な礫の一端に片面からの加工により刃部（片刃）を作出している。どちらもホルンフェルス製である。

30は石錘で攪乱土中の出土である。楕円形を呈する扁平な砂岩礫の短軸側に両面からの加工を施し、特に下面の加工は入念である。また火を受けたため、赤変が著しい。本来なら縄文時代早期以外の時期も考えられるが、別府原遺跡のものと同様、短軸側に加工を行う等

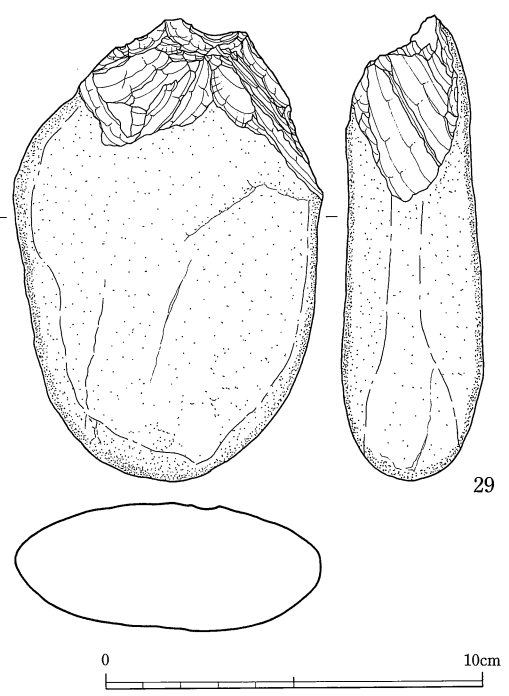
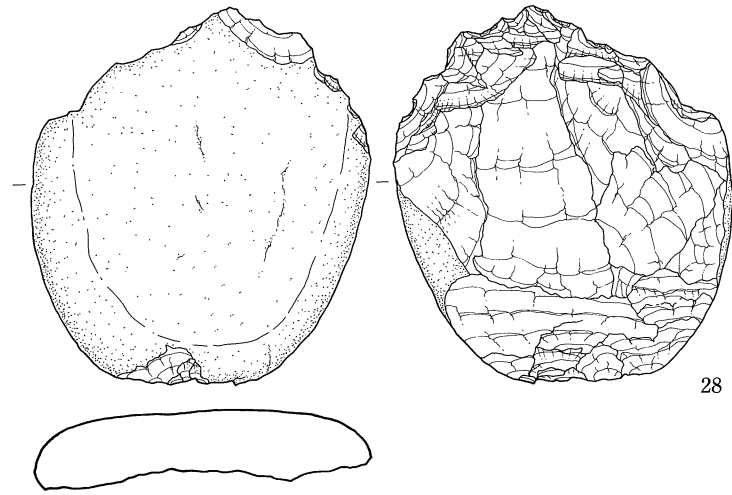
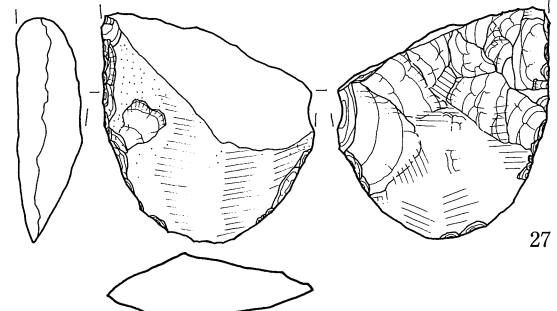
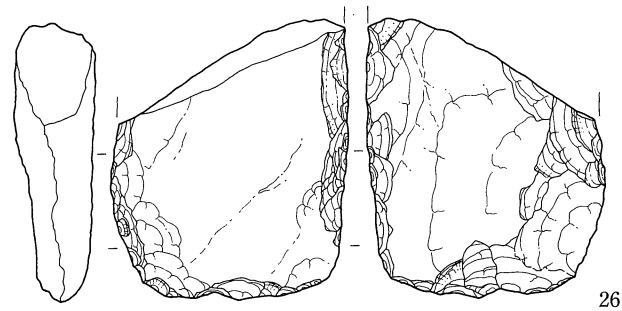
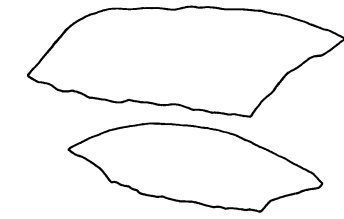
第110図 西ヶ迫遺跡 縄文時代早期遺物(2) [S=2/3]



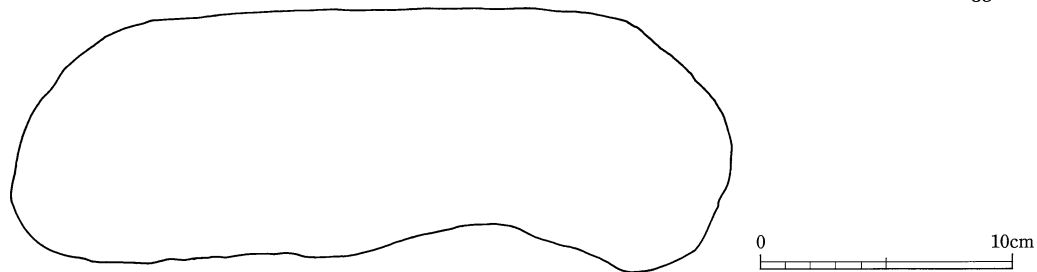
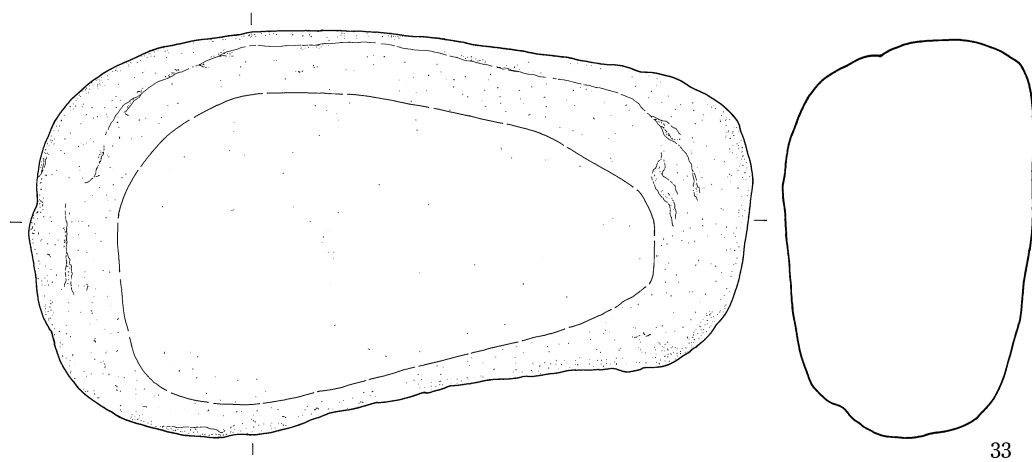
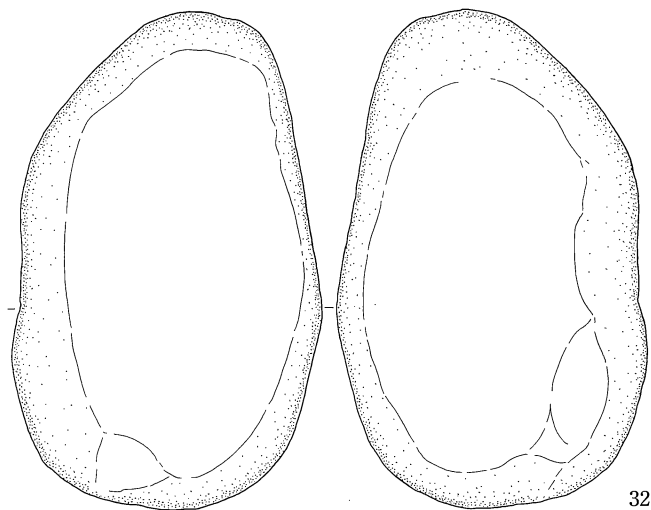
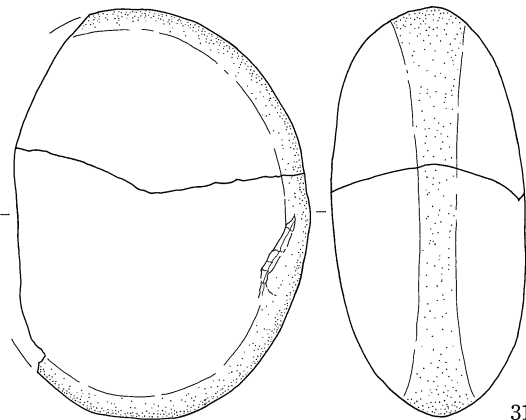
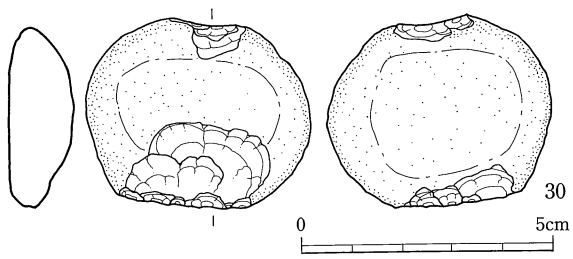
の特徴から縄文時代早期の可能性も考えられるため、本項に含めた。

31は磨石である。楕円形を呈し、両面とも磨痕が明瞭に認められる。尾鈴酸性岩製である。

32・33は石皿である。どちらも長楕円形の尾鈴酸性岩礫を利用し、32には両面、33には片面に磨痕が認められる。



第111図 西ヶ迫遺跡 縄文時代早期遺物(3) [S=1/2]



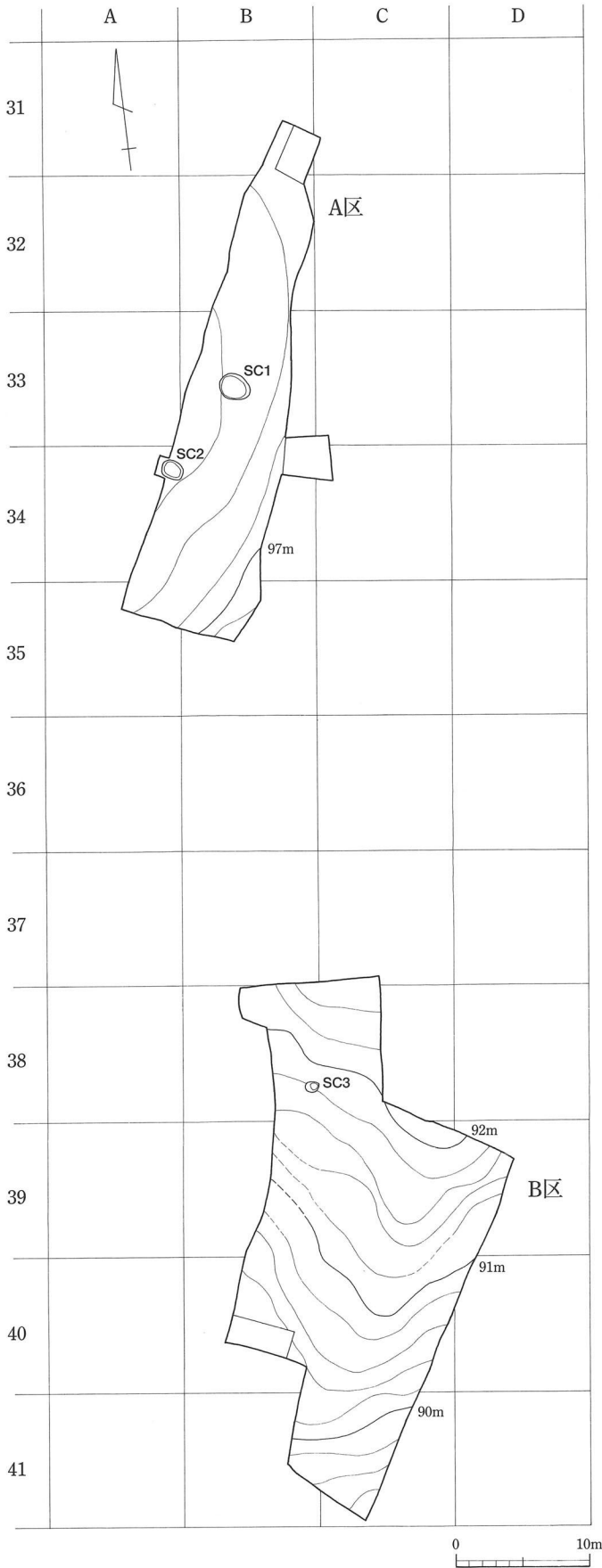
第112図 西ヶ迫遺跡 縄文時代早期遺物(4) [30:S=2/3,31:S=1/2,32・33:S=1/3]

第13表 西ヶ迫遺跡 縄文時代早期土器観察表

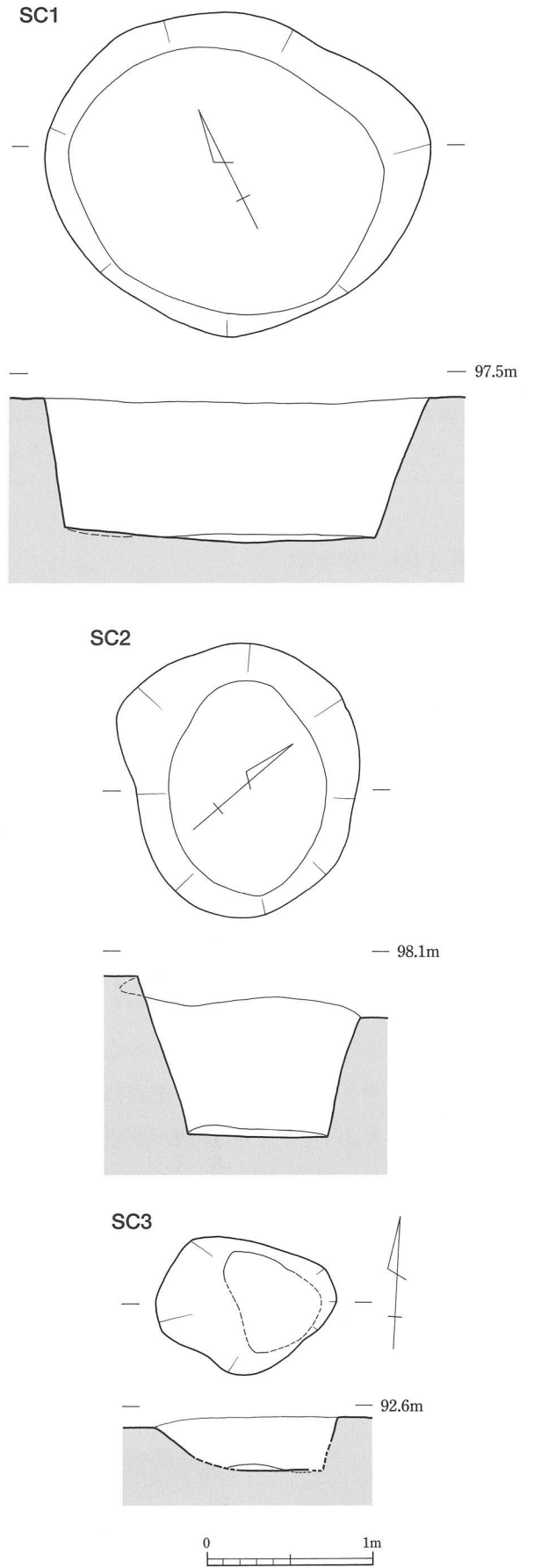
図面 番号	出土 位置	層位	器 種 部 位	文 様	調 整	色 調		胎土の特 徴	備 考
						外 面	内 面		
8	B区	IV	深口 鉢 縁部	貝殻腹縁による縦位の連続刺突文	外面 横方向の貝殻条痕(風化気味) 内面 横、斜方向のミナギ	浅黄橙色	にぶい 黄橙色	2mm以下の黒色粒、褐色粒を含む	
9	B区	IV	深口 鉢 部	楕円状施文による綾杉文	外面 — 内面 ナデ	にぶい 橙 色	にぶい 橙 色	3.5mm以下の白色粒、うすい肌色粒、黒色粒、透光沢粒を含む	
11	B区	IV	深口 鉢 縁部	縦位の貝殻腹縁による連続刺突文	外面 貝殻条痕文 内面 ナデ	にぶい 黄橙色	浅黄色	1mm以下の白色粒を含む	
12	B区 D39	IV	深口 鉢 縁部	棒状工具による縦位短沈線文、横位の羽状文	外面 ナデ 内面 横ナデ、丁寧なナデ	赤褐色	褐 色	2mm以下の黒色で鋭光沢柱状粒、黄色味のある粒、白色の粒を含む	
13	A区 A35	IV	深口 鉢 縁部	楕円状施文により下方に押し引く	外面 ナデ 内面 横ナデ	黄褐色	褐 色	微細～2mm大の白色粒、黄味のある粒、金色光沢粒を含む	内面は剥離が著しい
14	B区 A34 B34 B35	IV	深口 鉢 縁部	楕円押型文	外面 — 内面 ナデ 風化気味	橙色、 にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	4mm以下の半透明粒、3mm以下の黒色鋭光沢粒、5mm以下の灰色粒・白色粒を含む	
15	A区	IV	深口 鉢 部	楕円押型文	外面 — 内面 ナデ	橙 色	橙 色	微細な黒色光沢粒・灰白色半透明粒を含む	
16	A区 B34	IV	深口 鉢 部	楕円押型文	外面 — 内面 不明	橙 色	にぶい 黄橙色	微細な黒色光沢粒や灰色不定形粒を含む	内面は剥離が著しい
17	A区 B34	IV	深底 鉢 部	楕円押型文	外面 — 内面 ナデ	にぶい 黄橙色	黄褐色	3.5mm以下の黒色粒、白色粒を含む	
18	B区 B39	IV	深底 鉢 部	楕円押型文(風化気味)	外面 — 内面 ナデ	にぶい 黄橙色	にぶい 黄橙色	4mm以下のうすい褐色粒 2mm以下の白色・黒色・灰色・透光沢粒を含む	内面は剥離が著しい

第14表 西ヶ迫遺跡 縄文時代早期石器計測表

図面 番号	注記 番号	出土 位置	層位	器 種	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備 考
10	B SI17-2	B区 SI17		剥片	チャート	2.2	2.2	0.5	1.9	
19	C IV-1	C区 F40	IV	石鏃	チャート	2.2+ α	1.7	0.4	1	先端部欠損
20	B IV-61	B区 C38	IV	スクレイパー	ホルンフェルス	8.0	9.4	2.3	161.7	
21	A IV-15	A区 B34	IV	二次加工剥片	ホルンフェルス	2.9	7.1	0.8	18.7	
22	B IV-64	B区 B38	IV	二次加工剥片	ホルンフェルス	9.2	5.1	2.0	85.1	
23	B IV-39	B区 C38	IV	剥片	ホルンフェルス	4.7	7.9	2.1	64.6	
24	A IV-10	A区 B24	IV	石核	黒曜石(桑ノ木津留産)	1.4	1.7	1.3	2.5	
25	A IV-9	A区 B25	IV	打製石斧	ホルンフェルス	13.3	8.4	3.5	407.3	
26	A IV-7	A区 B26	IV	打製石斧	ホルンフェルス	7.2	6.5	2.1	119.6	
27	B IV-62	B区 B27	IV	局部磨製石斧	ホルンフェルス	5.0	6.4	2.0	62.1	
28	B IV-70	B区 B39	IV	礫器	ホルンフェルス	9.9	8.9	2.5	249.8	
29	B IV-40	B区 C38	IV	礫器	ホルンフェルス	12.1	8.2	3.9	485.5	
30	B	B区		石錘	砂岩	3.7	4.5	1.5	31.7	赤変
31	B IV-60, B IV-68	B区 D39	IV	磨石	尾鈴酸性岩	10.8	8.0	5.2	639.5	
32	A IV-29	A区 B34	IV	石皿	尾鈴酸性岩	19.7	12.5	5.5	2070	
33	B IV-4	B区 C39-D39	IV	石皿	尾鈴酸性岩	28.8	15.9	10.7	7400	



第113図 西ヶ迫遺跡 時期不明遺構分布図 (S=1/500)



第114図 西ヶ迫遺跡 土坑(SC)実測図 (S=1/40)

3. 時期不明の遺構（第113・114図、第15表）

時期不明の遺構はA区及びB区で土坑が3基確認されている。土坑はいずれも楕円形を呈し、いずれもⅡ層主体の埋土で構成されている。遺物はSC1で土器片が出土しているが、小片のため時期決定には至らなかった。

第15表 西ヶ迫遺跡 土坑(SC)一覧表

番号	検出位置	層位	形態	上場の規模(m)	下場の規模(m)	深さ(m)	備考
1	A区 B33	Ⅳ	楕円形	2.44×1.94	1.9×1.58	0.84	埋土は2層に分層。土器片が1点出土しているが、小片のため不明。
2	A区 A・B34	Ⅳ	楕円形	1.65×1.41	1.31×0.95	0.98	埋土は3層に分層
3	B区 B38	Ⅳ	楕円形	1.09×0.79	(0.51)×0.6	0.32	埋土は1層に分層

第4節 まとめ

調査では狭い調査範囲にもかかわらず、旧石器時代から縄文時代早期までの遺構や遺物が確認されている。

そのうち縄文時代早期では集石遺構が20基確認され、特に群で確認されているB区中央では8基が密集し、うち5基が切り合いをみせる。5基とも掘り込みを有するタイプで、構成礫も他の集石遺構のものとは比べ、圧倒的に点数が多い。こうした状況は形成過程（サイクル）による一因のものとも考えられるが、他の集石遺構では隣接するが切り合いが認められず、はたしてそれが何を意味するものなのか結果を出すまで至らなかった。今後の検討課題としたい。

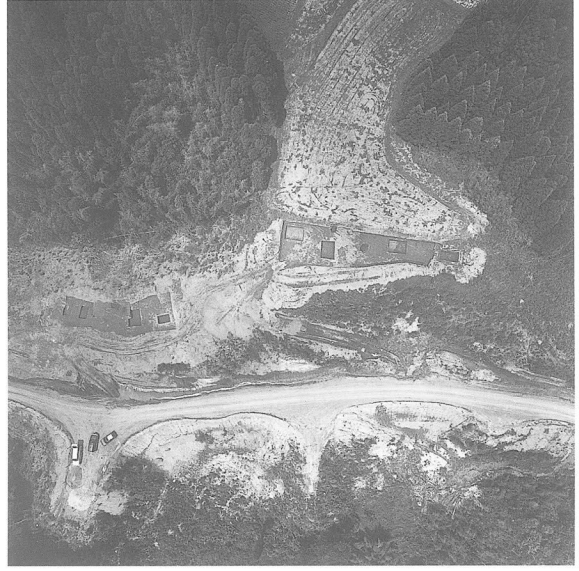
また土器については円筒形貝殻文土器や押型文系土器が少量ながら確認されている。円筒形貝殻文土器では9の器面に横位の綾杉文を施す土器がみられ、その特徴より桑ノ丸式土器と考えられる。また12については棒状工具により、上から縦位・斜位・逆斜位と行ごとに施文を行っており、このような特徴については尾平・楯原遺跡出土の桑ノ丸式土器の施文方法に似ており、桑ノ丸式土器の時期に近い所産のものと考えられる。押型文土器については器形や文様の特徴から下菅生B式土器に相当すると考えられ、桑ノ丸式土器との共伴例が確認されており、本遺跡も例に漏れない結果となった。

参考文献

宮崎県埋蔵文化財センター1997「尾平・楯原遺跡 楯原遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第8集



西ヶ迫遺跡(北より)



調査区(A・B区)



土層堆積状況



調査風景



SI1(南より)



SI2(一面除去後、南より)



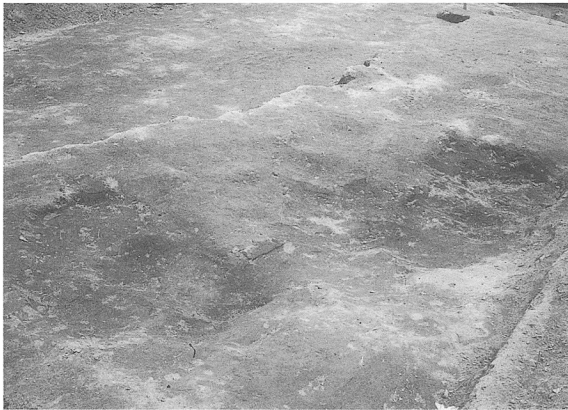
SI4(北より)



B区 礫群南側(北東より)



B区 礫群北側(北より)



B区 礫群完掘状況(北西より)



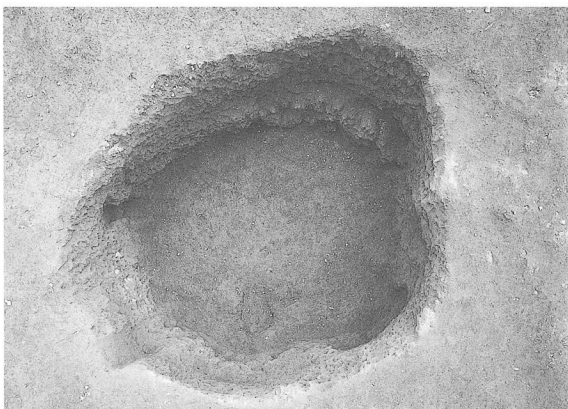
SI16(北より)



C区 集石遺構検出状況(SI15・16・18~20)



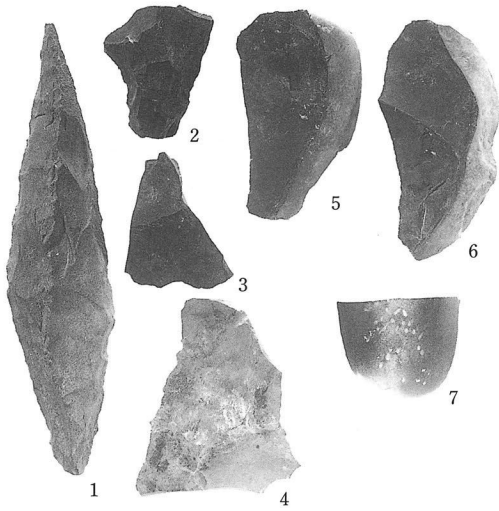
A区 縄文時代早期遺物分布状況(南より)



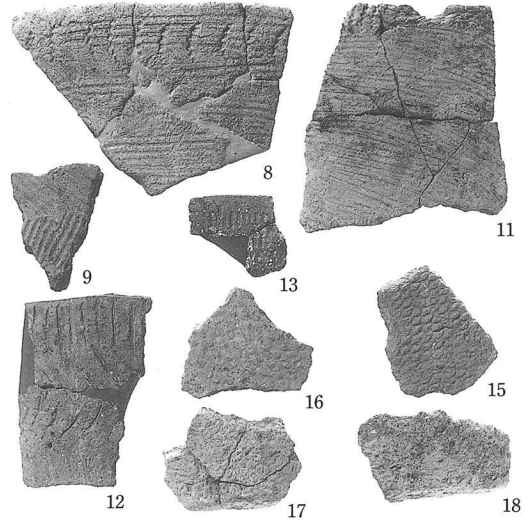
SC1



SC2



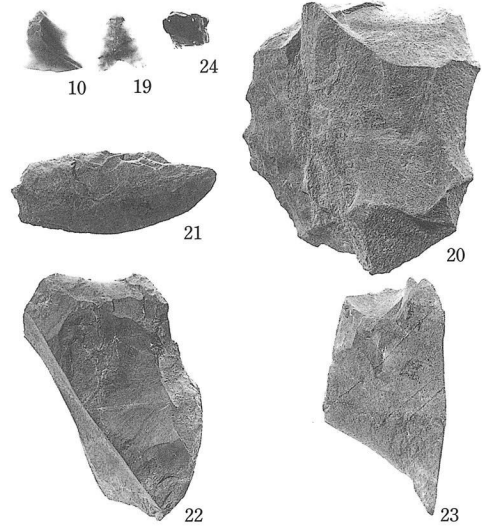
旧石器時代遺物



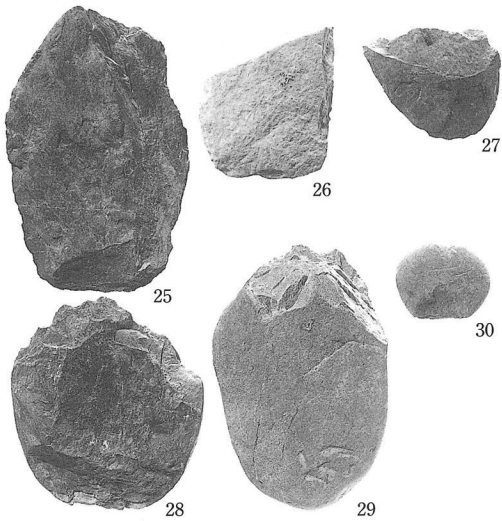
縄文時代早期土器 (1)



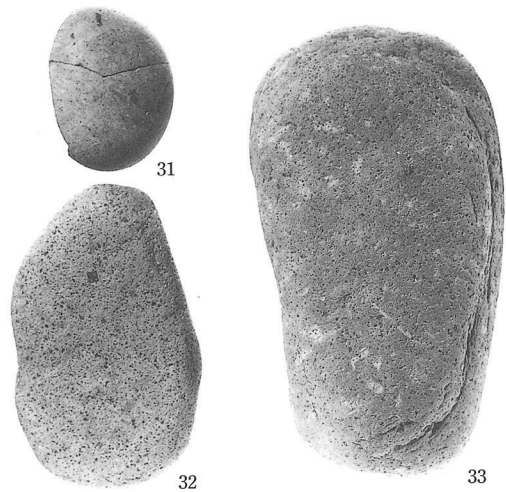
縄文時代早期土器 (2)



縄文時代早期石器 (1)



縄文時代早期石器 (2)



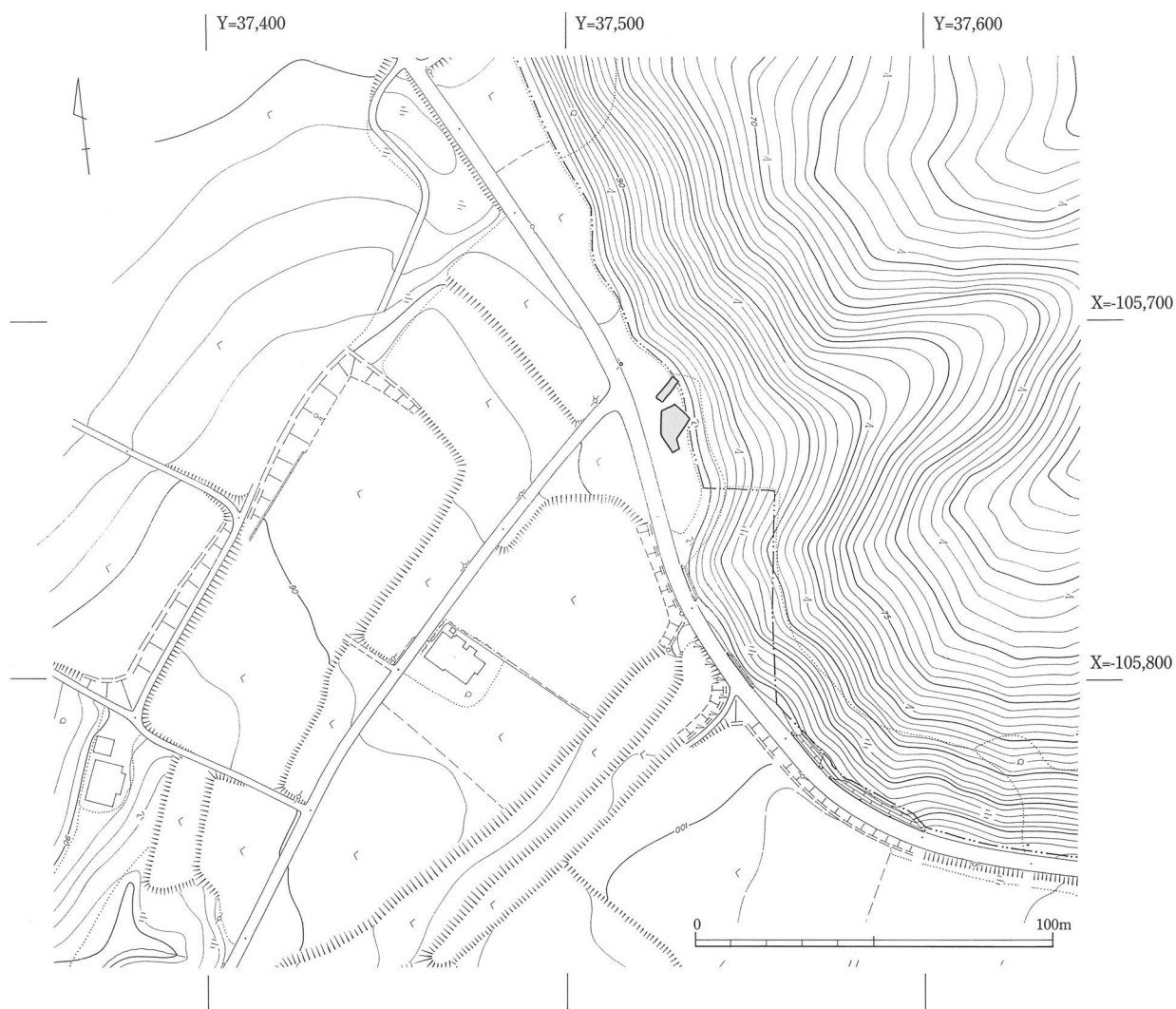
縄文時代早期石器 (3)

第Ⅳ章 別府原第2遺跡

第1節 調査の概要

別府原第2遺跡は別府原遺跡同様、西都市大字鹿野田字別府原に所在する。遺跡は、当時大学生であった金丸武司氏（現田野町教育委員会）が神子柴型石斧を表採した小判屋敷遺跡が立地する丘陵から南東側に向かって、緩やかに延びる標高約95mの丘陵端部に位置し、東側に入る急崖と西側の窪状地形によって挟まれた、比較的平坦な地形に立地する。窪状地形はその西側に開析谷の痕跡が認められることから、本来は調査区の手前まで入り込んでいたものが、後世の開発等により現地形を呈するようになったものと考えられる。さらに南東約200m先の南東側丘陵上には別府原遺跡が立地し、本遺跡と小判屋敷・別府原の両遺跡との比高差は、小判屋敷遺跡とは約5m、別府原遺跡とは約6mである（第2・115図）。

調査は、確認調査で遺構が検出された部分を中心に行った。第1編、第4章でも触れているとおり、対象範囲が狭く、排土を置くスペースが確保できないため、2回に分けて調査することにした。調査対象区の南側部分を重機により表土剥ぎを行った後、人力により、遺構検出および掘り下げを行った。調



第115図 別府原第2遺跡 周辺地形と調査区 [S=1/2,000]

査の結果、旧石器時代ではスクレイパーや二次加工剥片、使用痕剥片、剥片、磨石、台石、細石核等が出土し、縄文時代早期の集石遺構3基と手向山式土器や楔形石器・礫器等や時期不明の溝状遺構が1条確認されている。

第2節 遺跡の層序

本遺跡の層序は、別府原遺跡のものと基本的には同等の層序を示す。南側の一部にアカホヤ火山灰層（Ⅲ層）が薄く残存していた程度で、他はⅣ層まで削平を受けていた（第116図）。

I層 表土・耕作土

II層 黒褐色土層 硬質でしまりがある。部分的に黄褐色粒や砂粒を含む。2層（IIa・IIb）に分層でき、IIb層は色調が上層よりも若干明るい。造成土と考えられる。

III層 黄褐色土層 アカホヤ火山灰層で、粒子が細かく、下部には火山豆石が確認されている。

IV層 黒褐色土層 やや硬質でしまりがあり、1mm前後の白色粒等を含む。2層（IVa・IVb）に分層でき、上層の方は下層と比べ、白色粒の含有量が多く、色調が暗い。

V層 暗褐色土層 やや硬質でしまりがある。色調に明・暗があり、斑状を呈する。白色粒等を僅かに含む。2層（Va・Vb）に分層でき、Vb層には色調が上層と比べて、やや明るく、部分的にVI層ブロック（径約2～3cm）が入る。縄文時代早期の包含層である。

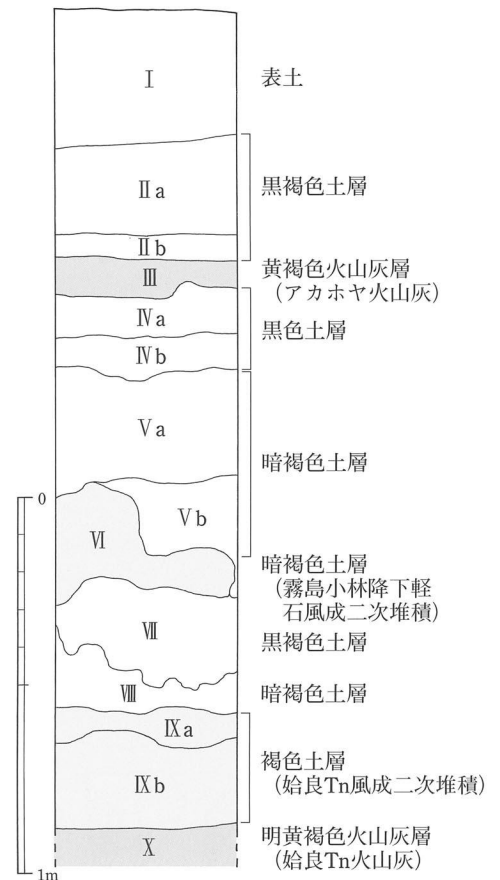
VI層 暗褐色土層 霧島小林降下軽石の風成二次堆積層で、かなり硬質でよく締まっている。上層の浸食が激しく、凸凹している。

VII層 黒褐色土層 やや硬質で締まりがあり、白色粒を含む。旧石器遺物包含層である。

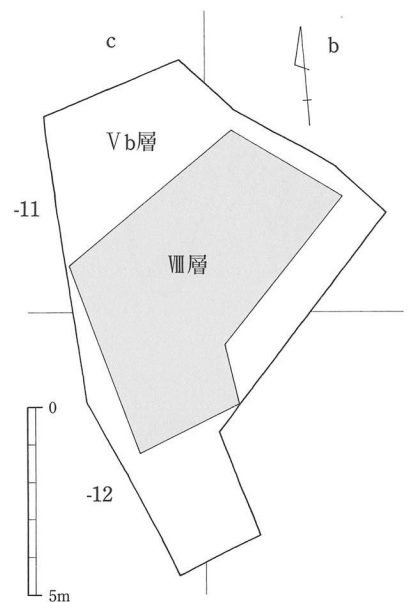
VIII層 暗褐色土層 水気を含む、粘質がある。色調に明・暗があり、斑状を呈する。部分的に薄く堆積している部分や堆積がみられない部分もみられ安定していない。

IX層 褐色土層 始良Tnの風成二次堆積層である。粒子が粗く、ザラザラとしている。2層に細分出来（IXa・IXb）、そのうちIXb層は上記の特徴に斑状の模様が入る。

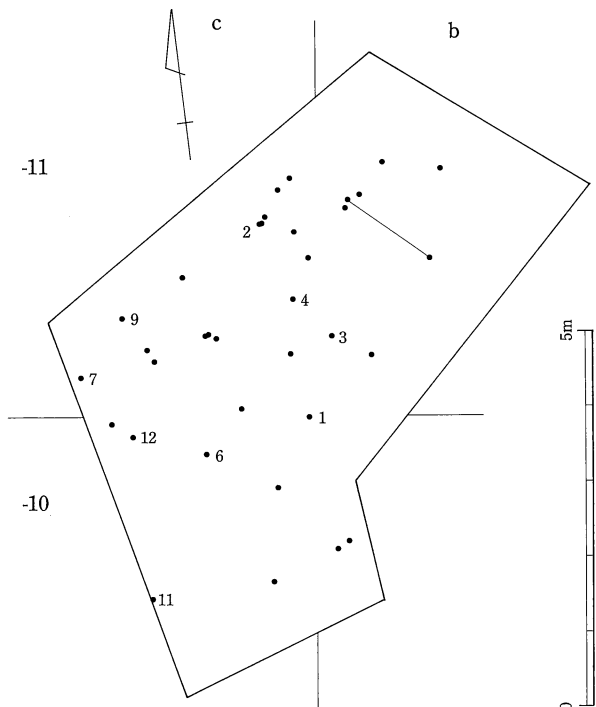
X層 明黄褐色火山灰層 始良Tn火山灰層。



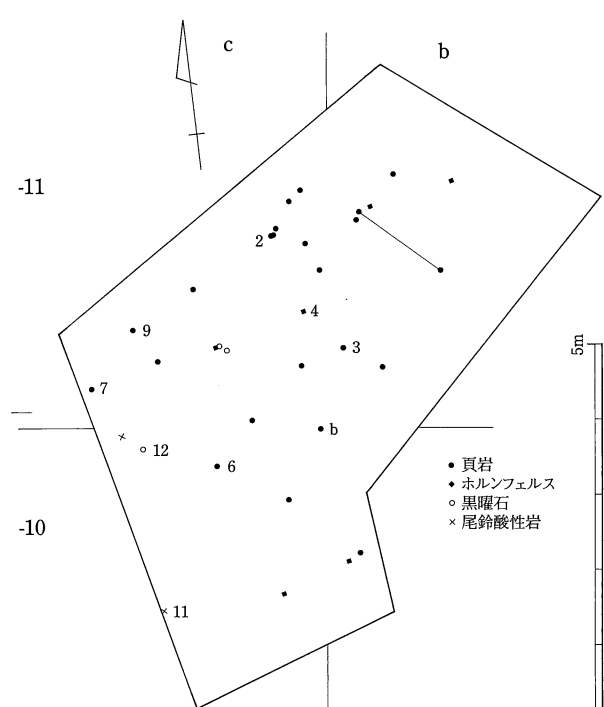
第116図 別府原第2遺跡
基本層序〔S=1/20〕



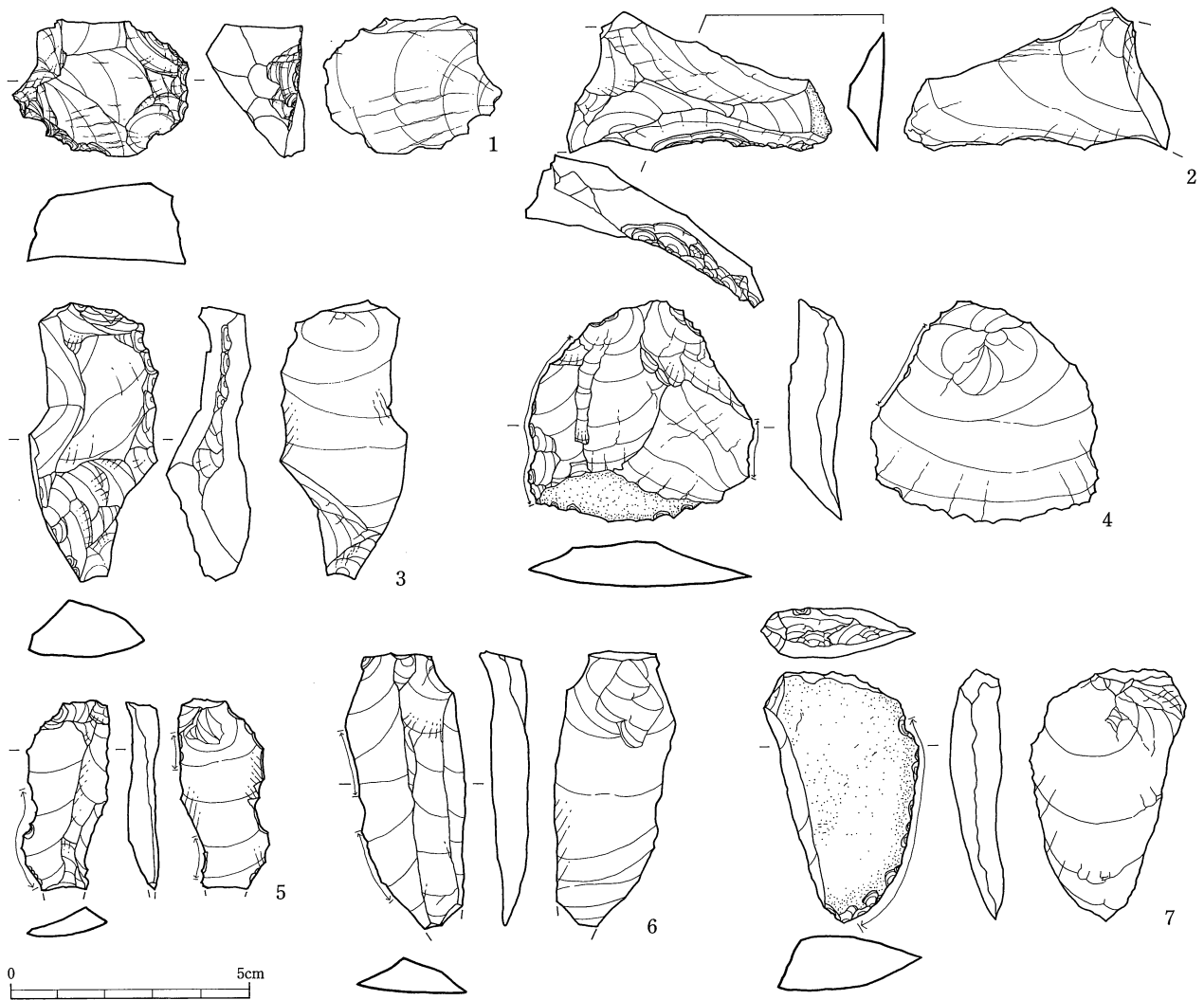
第117図 別府原第2遺跡
層別の調査範囲〔S=1/200〕



第118図 別府原第2遺跡 旧石器時代遺物分布図 (S=1/100)



第119図 別府原第2遺跡 旧石器時代石材別遺物分布図 (S=1/100)



第120図 別府原第2遺跡 旧石器時代遺物実測図(1) (S=2/3)

第3節 調査の成果

1. 旧石器時代の遺物 (第117~118図)

旧石器時代の調査については、Ⅵ層上面で東西方向に2m×3mのトレンチを北側と南側に設定し、掘り下げを行った。その結果、遺物の分布が西側に広がりを見せることからトレンチを拡張した。諸事

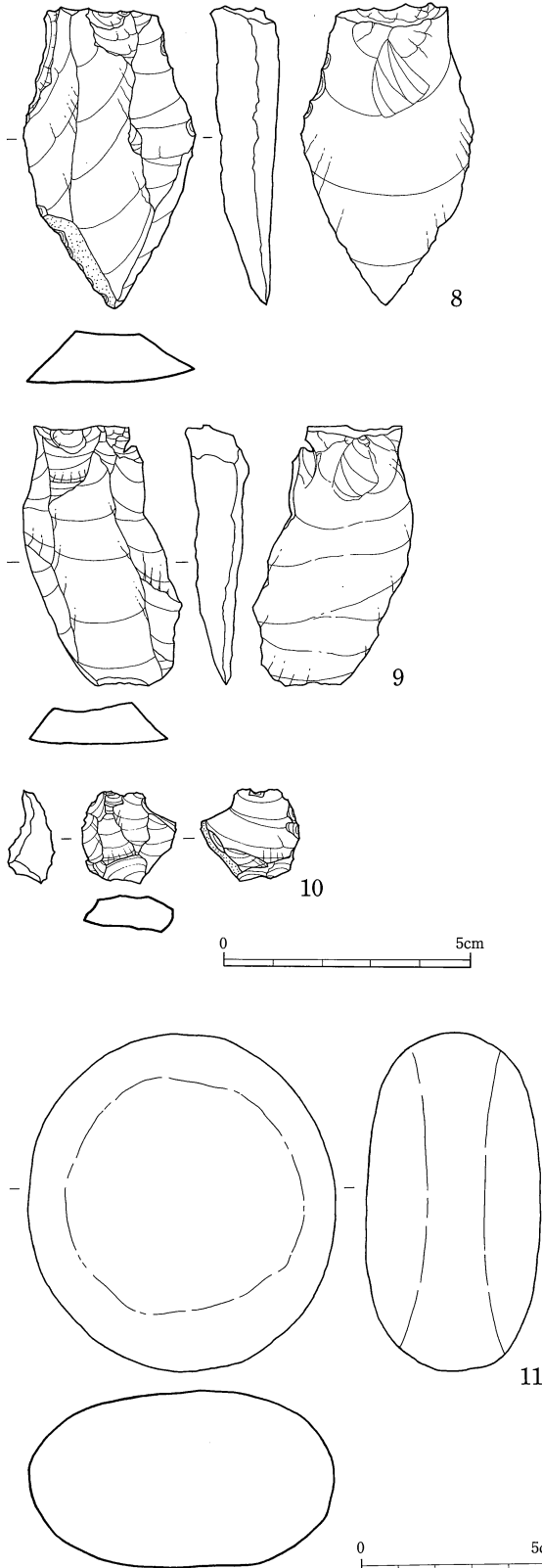
情により、Ⅸa層上面で調査を終了したが、北西側と南東側にその分布が延びると考えられる。

(1) 遺物 (第119・120図、第16表)

遺物は主にⅦ層中でみられ、一部、Ⅵ層下部でも出土している。総数33点で、内訳はスクレイパー2点、二次加工剥片4点、使用痕剥片4点、剥片18点、碎片2点、磨石2点、細石核1点である。利用石材は頁岩23点、ホルンフェルス5点、黒曜石3点(うち、桑ノ木津留産1点、上牛鼻産1点)、尾鈴酸性岩2点である。

1はエンドスクレイパーである。頁岩製で厚みのある幅広の剥片を素材にして、下縁から右側縁にかけて主要剥離面からの加工が施され刃部を形成している。2はサイドスクレイパーである。横長の剥片を素材にして、一辺に主要剥離面からの加工が連続的に施され、刃部を形成している。頁岩製である。3は二次加工剥片である。右側縁上部と主要剥離面の末端に加工が施されている。頁岩製である。4~7は使用痕剥片で、いずれも頁岩製である。4のように幅広の剥片や5~7のような縦長剥片の一側縁ないし、両側縁に微小な剥離痕が認められる。8~10は剥片である。そのうち8・9は縦長剥片で、表面には主要剥離面と同方向から連続して剥片を剥離した痕跡が認められる。打面はどちらも平坦打面である。

11は磨石である。尾鈴酸性岩(溶結凝灰岩)製で、平面形は楕円形を呈する。風化が激しく、磨面があま



第121図 別府原第2遺跡 旧石器時代遺物実測図(2) [8~10:S=2/3, 11:S=1/2, 12:S=1/1]

瞭ではない。一部に赤変が認められる。12は細石核である。C-10グリッドで出土している。上牛鼻産黒曜石の小角礫を素材とし、分割後、上面を打面に設定し、正面を作業面として、細石刃剥離作業を行っている。打面には表面からの調整が認められる。

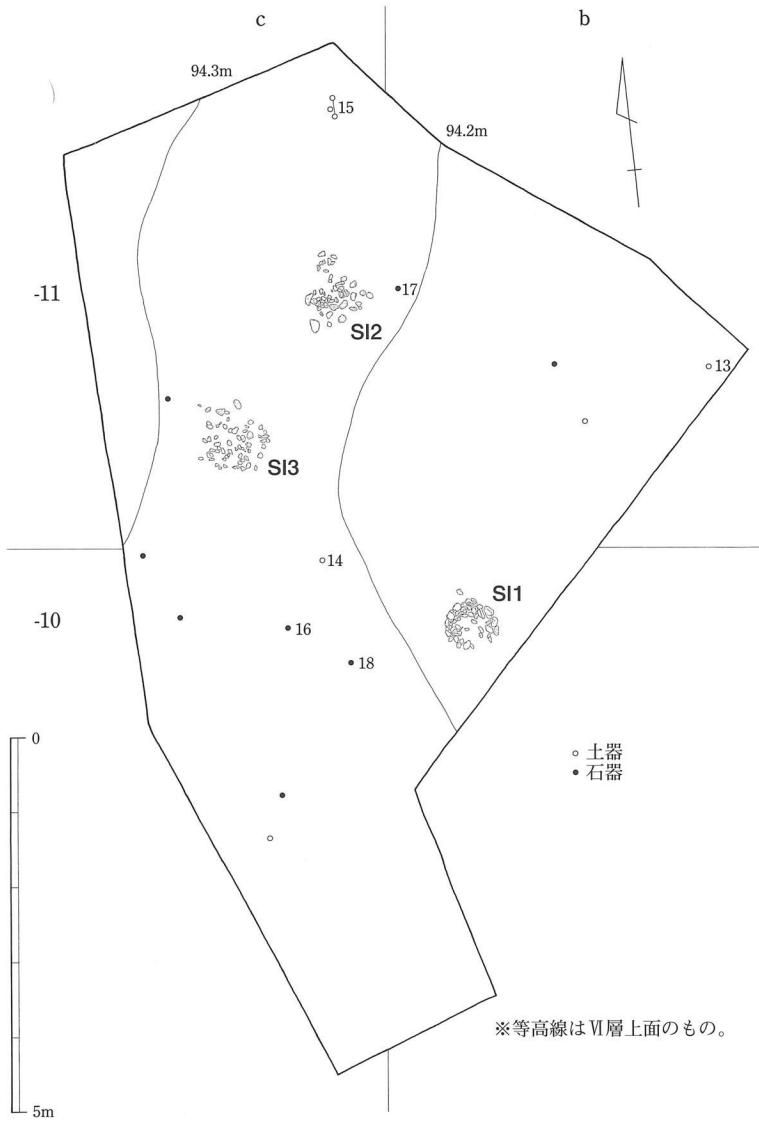
第16表 別府原第2遺跡 旧石器時代石器計測表

図面 番号	注記番号	出土 位置	層位	器 種	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	備 考
1	Ⅶ-31	c-10・11	Ⅶ	スクレイパー	頁岩	3.3	3.5	2.1	20.5	
2	Ⅶ-23-①	c-11	Ⅶ	スクレイパー	頁岩	2.9	5.5	1.6	15.9	
3	Ⅶ-28	b-11	Ⅶ	二次加工剥片	頁岩	5.8	2.6	1.8	15.7	
4	Ⅶ-26	c-11	Ⅶ	使用痕剥片	頁岩	4.5	4.8	1.2	23.3	
5	Ⅶ		Ⅶ	使用痕剥片	頁岩	4.1	1.9	0.7	3.9	
6	Ⅶ-36	c-10	Ⅶ	使用痕剥片	頁岩	5.7	2.4	1.0	9.9	
7	Ⅶ-42	c-11	Ⅶ	使用痕剥片	頁岩	5.3	3.1	1.2	17.1	
8	Ⅶ		Ⅶ	剥片	頁岩	6.0	3.4	1.4	24.1	
9	Ⅶ-51	c-11	Ⅶ	剥片	頁岩	5.5	2.9	1.2	16.2	
10	Ⅶ-33	c-11	Ⅶ	剥片	黒曜石	1.9	1.8	0.9	2.4	
11	Ⅶ-38	c-10	Ⅶ	磨石	尾鈴酸性岩	9.2	8.3	4.8	547.7	
12	Ⅶ-37	c-10	Ⅶ	細石核	黒曜石(上牛鼻産)	1.3	0.8	0.7	0.9	
	Ⅶ-16	b-11	Ⅶ	二次加工剥片	頁岩	4.0	5.4	1.5	28.5	Ⅶ-20と接合
	Ⅶ-20	b-11	Ⅶ	二次加工剥片	頁岩	4.4	5.4	1.4	29.9	Ⅶ-16と接合
	Ⅶ-27-①	c-11	Ⅶ	二次加工剥片	頁岩	2.2	1.6	0.5	1.9	
	Ⅶ-21	b-11	Ⅶ	剥片	頁岩	3.7	2.7	1.1	8.4	
	Ⅶ-24	c-11	Ⅶ	剥片	頁岩	2.3	3.4	0.9	8.2	
	Ⅶ-34	c-11	Ⅶ	剥片	頁岩	3.0	3.3	0.9	7.4	
	Ⅶ-18-①	b-11	Ⅶ	剥片	頁岩	1.2	2.2	0.5	1.3	
	Ⅶ-18-②	b-11	Ⅶ	剥片	頁岩	1.8	2.6	0.6	2.0	
	Ⅶ-22	c-11	Ⅶ	剥片	頁岩	2.4	2.5	0.7	3.7	
	Ⅶ-30	c-11	Ⅶ	剥片	頁岩	1.6	2.3	0.9	2.1	
	Ⅶ-35	c-10	Ⅶ	剥片	頁岩	0.9	2.0	0.4	0.5	
	Ⅶ-25	c-11	Ⅶ	剥片	頁岩	3.8	2.6	1.0	8.3	
	Ⅶ-32-②	c-11	Ⅶ	剥片	黒曜石(桑ノ木津留産)	1.4	1.7	0.6	0.8	
	Ⅶ-17	b-11	Ⅶ	剥片	ホルンフェルス	2.2	4.7	1.9	15.1	
	Ⅶ-19	b-11	Ⅶ	剥片	ホルンフェルス	3.1	5.2	1.2	16	
	Ⅶ-27-②	c-11	Ⅶ	剥片	ホルンフェルス	2.6	5.0	0.9	6.6	
	Ⅶ-39	c-10	Ⅶ	剥片	ホルンフェルス	4.3	6.4	1.3	41.8	
	Ⅶ-40	b-10	Ⅶ	剥片	ホルンフェルス	5.3	4.2	0.9	17.2	
	Ⅶ-23-②	c-11	Ⅶ	碎片	頁岩	0.7	1.6	0.4	0.3	
	Ⅶ-32-①	c-11	Ⅶ	碎片	頁岩	1.0	1.0	0.4	0.3	
	Ⅶ-53	c-10	Ⅶ	磨石	尾鈴酸性岩	10.3	7.8	5.7	639.9	

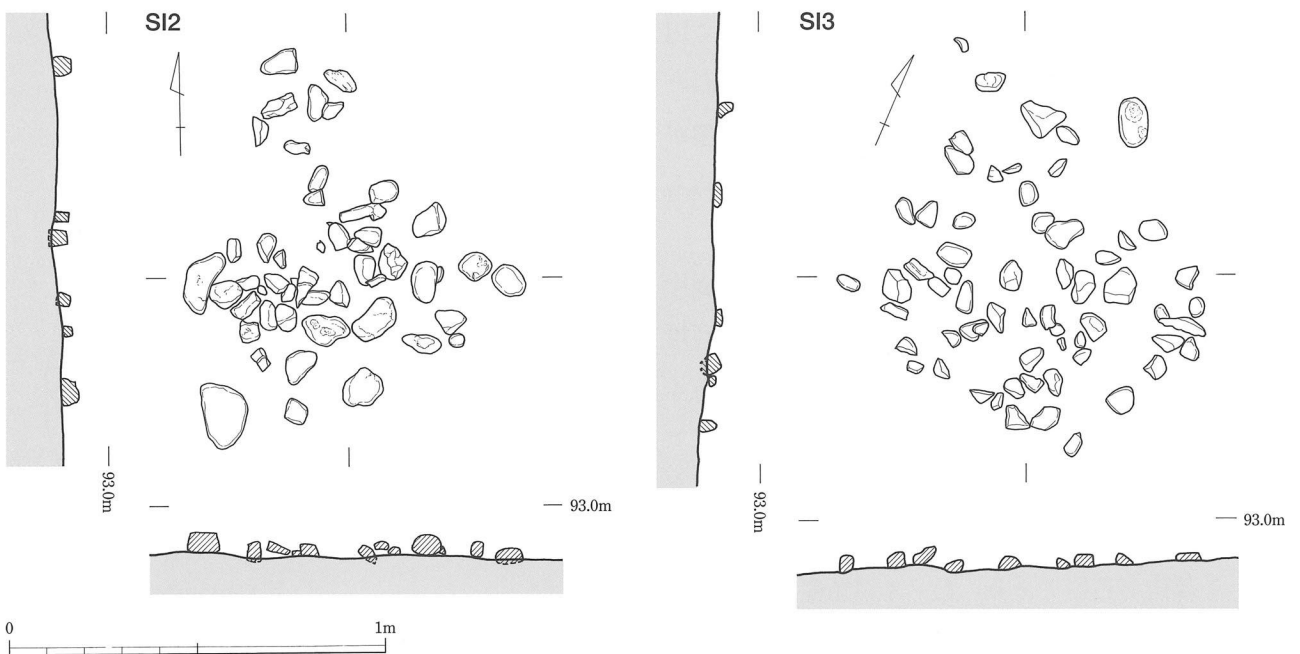
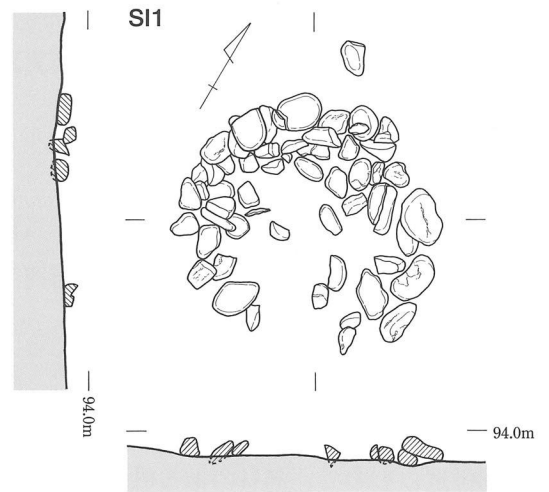
2. 縄文時代早期の遺構と遺物

(1) 遺 構 (第122・123図、第17表)

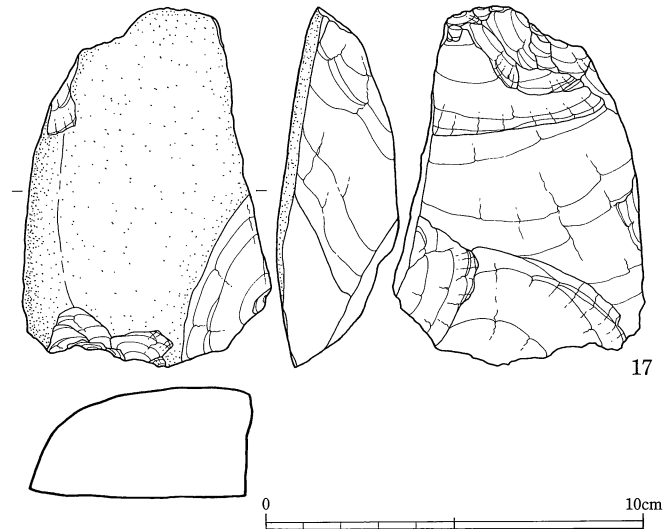
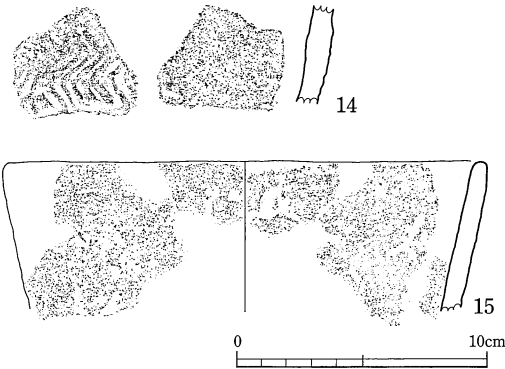
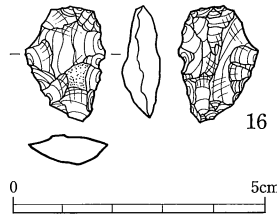
縄文時代早期の遺構は、調査区の中央付近でまとまって集石遺構3基が確認されている。集石遺構はいずれも掘り込みを持たず、1m前後の範囲で水平に集積している。形状はS I 1のように中央から南側にかけて礫が認められず、C字状を呈するものとS I 2やS I 3のようにややばらけた状態のもの(別府原遺跡分類のV類に相当)とに分けることができる。また礫については、約50~60点で構成され、約5cm~30cm規模の砂岩や尾鈴酸性岩が良く利用されている。



第122図 別府原第2遺跡 縄文時代早期遺構および遺物分布図 (S=1/100)



第123図 別府原第2遺跡 集石遺構 (SI) 実測図 (S=1/20)



第124図 別府原第2遺跡 縄文時代早期土器実測図〔S=1/3〕

(2) 遺物 (第124図、第18・19表)

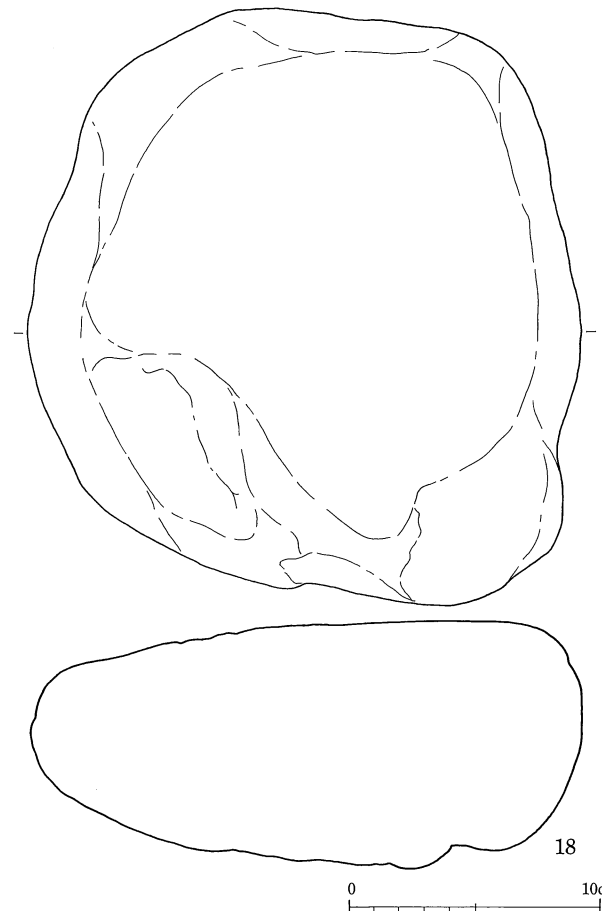
遺物は土器片10点 (一括も含む)、石器が11点出土している。その分布は北東側と南西側に分かれる。土器はそのうちの3点図示した。

1と2 (同一個体) は手向山式土器で、縦位に山形の押型文が施文されている。そのうち1は口縁部付近のもので、刻目のある貼付突帯が2条認められる。

3は無文土器の口縁部片である。器形は恐らく円筒形もしくはバケツ形に近いものになると思われる。外内面とも器面が風化しているため、調整が不明瞭な部分が多いが、一部でナデ調整が認められる。

石器は楔形石器1点、二次加工剥片1点、剥片7点、礫器1点、台石1点が出土している。利用石材はホルンフェルス2点、頁岩1点、黒曜石4点、チャート2点、石英1点、尾鈴酸性岩1点である。黒曜石には桑ノ木津留産のものと日東系産のものがみられる。

1は楔形石器である。桑ノ木津留産黒曜石製で、断面が紡錘形を呈し、上下及び左側縁に階段状剥



第125図 別府原第2遺跡 縄文時代早期石器実測図〔16:S=2/3,17:S=1/2,18:S=1/3〕

離が認められる。2は礫器である。上下に加工が認められ、そのうち下端は表面からおおまかな剥離を行った後、主要剥離面から加工を施し、両刃状に仕上げている。ホルンフェルス製である。3は尾鈴酸性岩製で、磨痕らしき部分が認められることから、一応、石皿と考えた。

第17表 別府原第2遺跡 集石遺構計測表

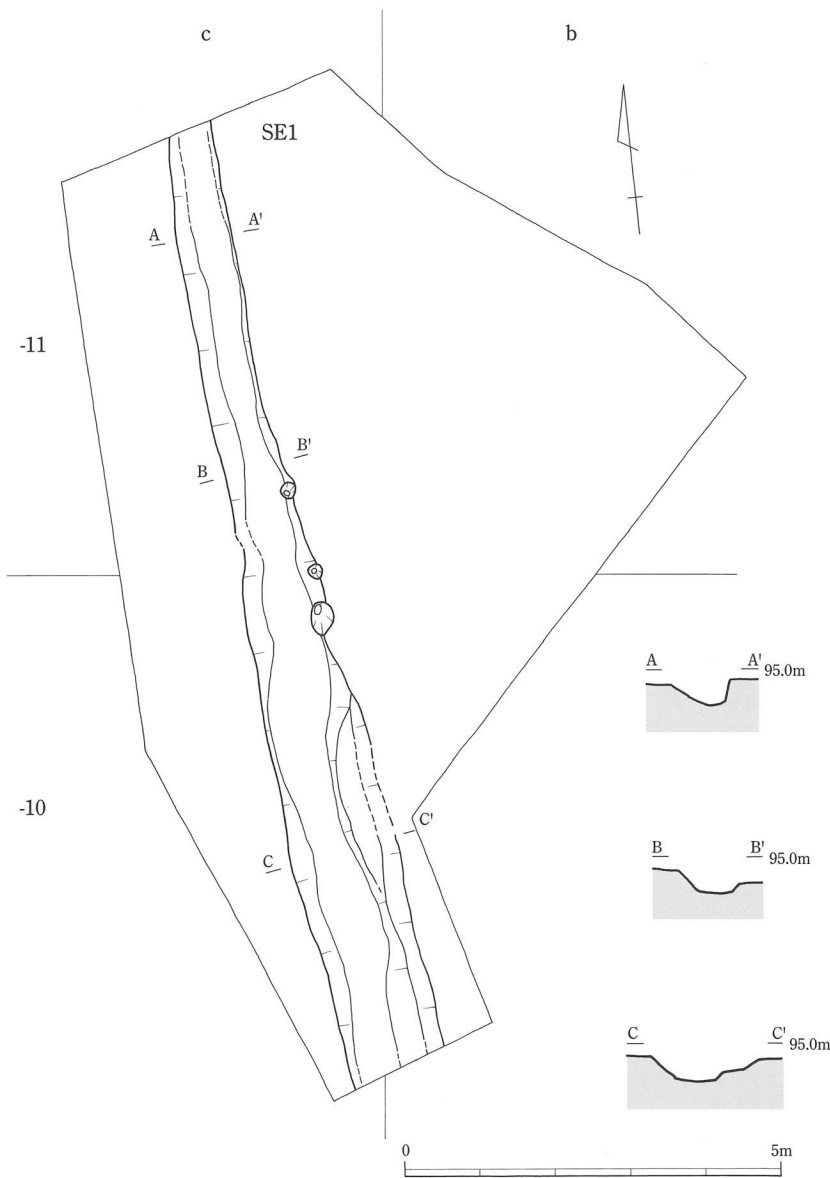
番号	検出位置	層位	分類	礫の範囲 (m)	土坑の規模 (m)	土坑の深さ (m)	配石の有無	礫の個数	備考
1	b-10	Vb		0.82×0.72	—	—	なし	56点 (砂岩38点, 尾鈴酸性岩17点, 頁岩1点)	完形礫17点。全ての礫が赤変している。特に砂岩のものが著しい。一部黒変しているものが認められる。
2	c-11	Vb	V	1.06×0.90	—	—	なし	48点 (砂岩27点, 尾鈴酸性岩15点, 頁岩6点)	完形礫24点。ほとんどの礫が赤変している。
3	c-11	Vb	V	1.1×0.97	—	—	なし	58点 (尾鈴酸性岩25点, 砂岩17点, 頁岩6点)	完形礫19点。ほとんどの礫が赤変しているが、中央部付近のものは赤変が弱い

第18表 別府原第2遺跡 縄文時代早期土器観察表

図面番号	出土位置	層位	部位	文様	調整	色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面		
13	b-11	Vb	深鉢口縁部付近	貼付突帯山形押型文	外面 — 内面 指頭圧痕、横ナデ	橙色	にぶい橙色	2 mm以下の透明光沢粒や灰白色、1.5 mm以下の黒色の粒、4 mm以下のにぶい黄橙色粒を含む	15と同一個体
14	c-10	Vb	深鉢胴部	山形押型文	外面 — 内面 風化著しい	橙色	にぶい黄橙色	2 mm以下の透明光沢粒や灰白色、1.5 mm以下の黒色の粒、4 mm以下のにぶい黄橙色粒を含む	14と同一個体
15	c-11	Vb	深鉢口縁部		外面 ナデ? (風化が著しく調整不明瞭) 内面 横ナデと思われるが風化著しい	にぶい黄橙色	灰黄褐色	2 mm以下の黒色光沢粒、1 mm以下の灰白色粒、3 mm以下の鈍い黄褐色色粒を含む	

第19表 別府原第2遺跡 縄文時代早期石器計測表

図面番号	注記番号	出土位置	層位	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大長 (cm)	最大厚 (g)	備考
16	Vb-10	c-10	Vb	楔形石器	黒曜石(桑ノ木津留産)	2.2	1.5	0.7	1.8	
17	Vb-5	b-11	Vb	礫器	ホルンフェルス	9.5	6.7	2.9	223.6	
18	Vb-15	c-10	Vb	石皿	尾鈴酸性岩	23.7	21.8	10.0	8000	
	Vb-12	c-10	Vb	二次加工剥片	頁岩	3.8	4.6	0.9	17.5	
	Vb-6	b-11	Vb	剥片	黒曜石(日東産?)	1.2	1.7	0.6	1.2	
	Vb-11-①	c-10	Vb	剥片	黒曜石(日東産?)	1.0	1.4	0.3	0.4	
	Vb-11-②	c-10	Vb	剥片	黒曜石(日東産?)	1.0	2.0	0.3	0.6	
	Vb-14	c-10	Vb	剥片	石英	2.1	2.2	1.7	6.8	
	Vb-1-①	c-11	Vb	剥片	チャート	0.9	1.0	0.4	0.8	
	Vb-1-②	c-11	Vb	剥片	チャート	1.4	1.4	0.3	0.6	
	Vb-13	c-10	Vb	剥片	ホルンフェルス	4.2	2.7	1.4	15.9	



第126図 別府原第2遺跡 溝状遺構(SE)実測図〔S=1/100〕

ている。またスクレイパーも特徴的で、そうしたことを踏まえるとナイフ形石器文化期でAT降灰後の中でも比較的古い段階になると考えられる。また細石核については、他の石器群と同じ包含層中で出土している。両者の出土レベルに明確な差がなく、上層からの混入の可能性も考えられるが判断できなかった。

縄文時代早期では集石遺構が3基とその周辺で手向山式土器が確認されている。手向山式土器には、刻目突帯が多条に入る等の特徴がみられる。これらの特徴をもつ土器は天道ヶ尾遺跡(熊本県)でもみられ、吉本正典氏が設定した妙見式土器と既存の手向山式土器の中間に位置するものと考えられる。

3. 時期不明の遺構

Ⅲ層～Ⅳa層にかけて調査区を南北に横断するように、溝状遺構(SE1)を1条確認している(第126図)。埋土は1層で黒褐色土が堆積している。断面は台形状を呈し、溝幅は0.74～1.3mを測り、南側にいくにしたがって、幅が広がる。また底面の高さはほとんど変わらず、南側で若干高くなる程度である。遺物等は出土していない。

第4節 まとめ

諸事情により、制約された調査になってしまったが、旧石器時代と縄文時代早期が確認されている。

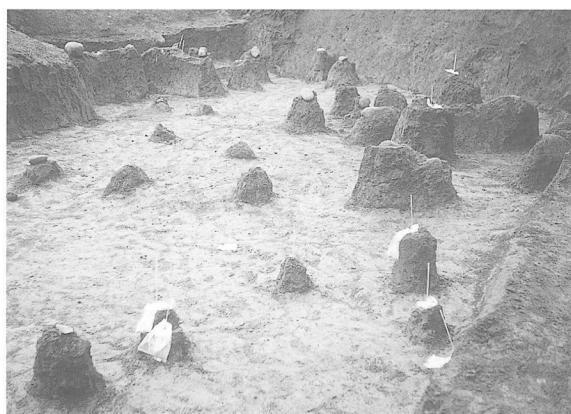
旧石器時代では、さらに2時期に細分でき、1つは縦長剥片を主体とする石器群、もう1つは細石核を主体とする石器群に分けられる。縦長剥片を主体とする石器群はAT上位で出土している。指標となるナイフ形石器等は確認されていないが、縦長剥片の中には8等のように剥片尖頭器の素材になるようなものを含まれている。



別府原第2遺跡遠景(南西より)



調査風景



旧石器時代遺物分布状況(北より)



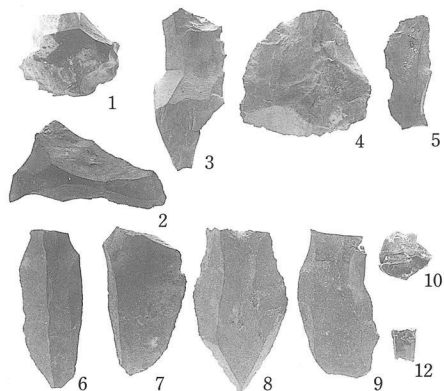
縄文時代早期遺構および遺物分布状況(北より)



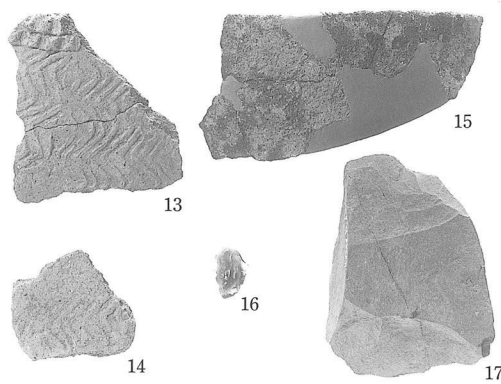
SI1(北より)



SE1(北より)



旧石器時代遺物



縄文時代早期遺物

報告書抄録

ふりがな	びゅうばるいせき にしがさこいせき びゅうばるだいにいせき					
書名	別府原遺跡		西ヶ迫遺跡		別府原第2遺跡	
副書名	東九州自動車道建設（西都～清武間）に伴う埋蔵文化発掘調査報告書 XVII					
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書					
シリーズ番号	第61集					
編集者名	日高広人					
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター					
所在地	〒880-0212 宮崎県佐土原町大字下那珂 4 0 1 9 番地					
発行年月日	2002年3月29日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
びゅうばるいせき 別府原遺跡	さいとしおおあざかのだあざびゅうばる 西都市大字鹿野田字別府原 4933～4938、4940～4943、4945 みやざきぐんさどわらちようおおあざかみたじま 宮崎県佐土原町大字上田島 あざにしがさこ 字西ヶ迫10147～10151	32° 2' 36" 付近	131° 23' 54" 付近	1996. 8. 20 ～ 1997. 12. 8	7,950㎡	東九州自動車 道建設
にしがさこいせき 西ヶ迫遺跡	みやざきぐんさどわらちようおおあざかみたじま 宮崎県佐土原町大字上田島 あざにしがさこ 字西ヶ迫9908、10111-1、10129、 10129-1	32° 2' 30" 付近	131° 23' 49" 付近	1997. 4. 16 ～ 1997. 5. 9 1997. 6. 9 ～ 1997. 7. 20	920㎡	東九州自動車 道建設
びゅうばるだいにいせき 別府原第2遺跡	さいとしおおあざかのだあざびゅうばる 西都市大字鹿野田字別府原	32° 2' 43" 付近	131° 23' 49" 付近	1997. 6. 26 ～ 1997. 7. 2	50㎡	東九州自動車 道建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
別府原遺跡	集落跡	縄文時代早期 中世 ～ 近世	竪穴2、土坑63、配石土坑12、 集石遺構48、配石遺構11、 炉穴307 道路状遺構2	条痕文土器、打製石鏃、磨製石鏃、 尖頭器、スクレイパー、打製石斧、 局部磨製石斧、礫器等 陶磁器 陶磁器		
西ヶ迫遺跡	散布地	旧石器 縄文時代早期	集石遺構20	三稜尖頭器、二次加工剥片、使用 痕剥片、剥片等 細石核 押型文土器、条痕文土器、打製石 鏃、スクレイパー、打製石斧、局 部磨製石斧、礫器等		
別府原第2遺跡	散布地	旧石器 縄文時代早期	集石遺構3	スクレイパー、二次加工剥片、使 用痕剥片、剥片等 細石核 手向山式土器、楔形石器、礫器、 二次加工剥片等		

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第61集

別 府 原 遺 跡
西 ケ 迫 遺 跡
別 府 原 第 2 遺 跡

東九州自動車道建設(西都～清武)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 XVI

2002年 3 月29日

発 行 宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地
TEL 0985 (36) 1171 FAX 0985 (76) 0660

印 刷 有限会社 富士写真印刷

〒880-0212 宮崎郡佐土原町大字下那珂字浮橋7418-2
TEL 0985 (74) 2179 FAX 0985 (74) 3066
